

ふっとコール倶楽部

カバードコール(“COVERED-CALL”)

米国の証券コードはアルファベットで表される。T は米国を代表する通信事業会社 AT & T のシンボル (日本の「証券コード」に相当する。) である。日本の NTT(証券コード 9432)にあたる。カバードコールを紹介した。以下のポジションは「カバードコール」である。

T +100 @27.00

T [5/16/25] 27C-1 @1.00

「T100 株買い、1 株あたりの買値 27.00 ドル」と「2025 年 5 月 16 日 満期日 (オプションには満期がある。) ストライクプライス 27 のコール 1 コントラクト (単位) 売り」の組合せの取引を示している。

「ストライクプライス」は日本語では「権利行使価格」という。「権利行使」については知らなければならぬ。上記の取引を真似て実行しても 5 月 16 日まで時間の余裕があるのでそれまでに学習しておぼえればよい。

「カバードコール」は気軽に実行できる。(プロのオプショントレーダーならバカにするかもしれないような取引だが、これ一つ習得するだけで資産を築けるといえば驚かれるにちがいない。)

セキュアードプット (“Secured Put”)

T [5/16/25] 27P-1 @1.00

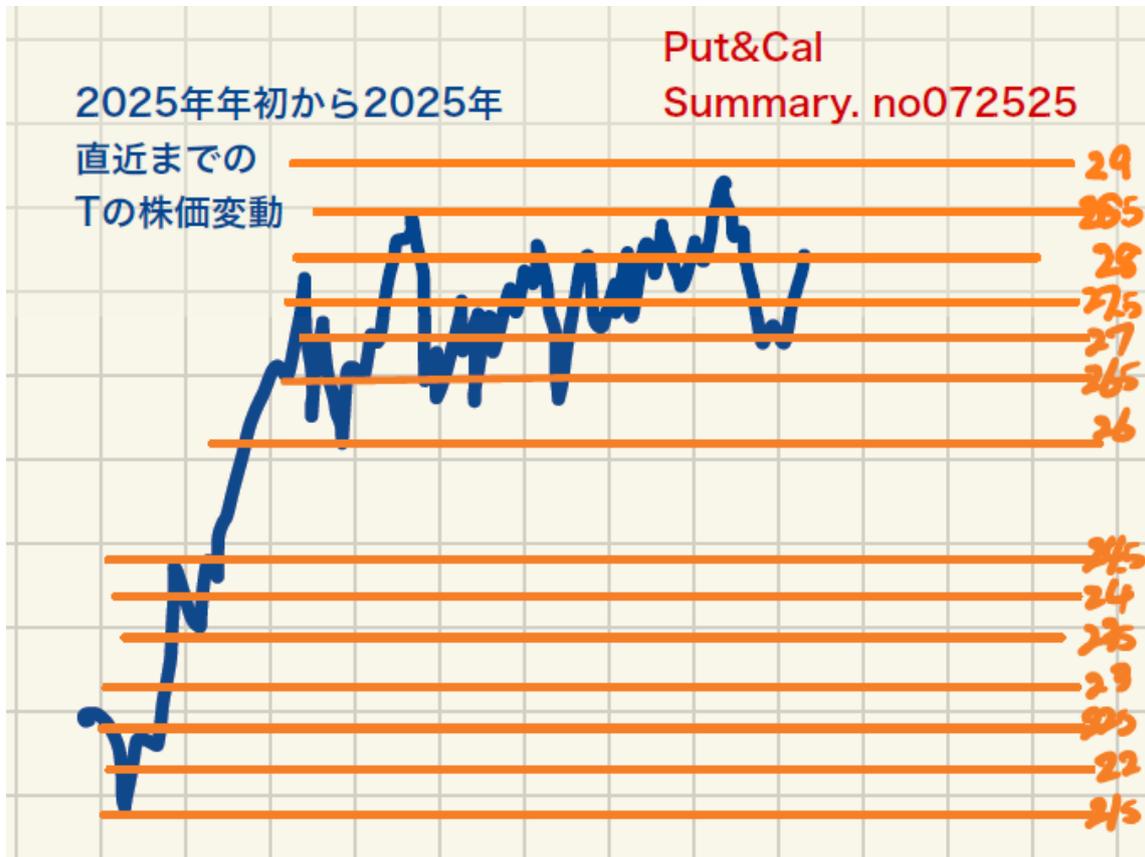
↑これは同じく T を対象にしたもので同じ期日の同じストライクプライスで、先の例と違うのは株式を買わない点とコールではないプットを売るという点である。これは、不思議に思われるかもしれないが、権利行使されると、“T+100 @20.00”(T100 株の買い、1 株あたりの買値 27.00)に変換される。このようなプット売りは権利行使に備えて株式購入代金を用意しておく。それを「セキュアードプット」(“Secured Put”)という。

*数ヶ月前までは米国株式オプションのボラティリティが高かったのでTのような保守的な銘柄でも1ヶ月で1ポイント前後のプレミアムがとれたが現在ではボラティリティが下がってしまい1ヶ月で0.3ポイントぐらいまで下がってしまった。0.30 (=1単位あたり30ドル)でも1年(12回)ロールすると360ドルになる。元本を2700ドルとすると収益率は10%を超える。配当としては悪くない。また、オプションを習い始めの投資家が実行するには不安なしに実行できる。さて、ここでTの1週間のオプションを紹介する。

T+100 @28.00

T [8/1] @0.30

↑期日 2025年8月5日で期日までの保有期間はわずか5日である。1週間平均30ドルの収入を受け取るとする。1ヶ月で120ドル、12ヶ月で1440ドルになる。元本を2800ドルとすると50%を超える収益率になる。その間に株価は変動するが1週間ごとのカバードコールのロールはかなり魅力的に見える。



2025 年年初から 2025 年直近までの T の株価変動 T は年初から順調に増加し 26~28 のレンジ内の変動が続いている。カバードコールもセキュアードプットも実行しやすい。年初から毎月カバードコールのロール（毎月乗り換え）を行なっていくと 1 セットあたり約 1 ポイント（100 ドル）の収入を得ることができた。

「セキュアードプット」と「カバードコール」は初めて実行する場合は「セキュアードプット」を先に実行するといいたいだろう。「セキュアードプット」が権利行使されると T の株式を保有することになる。そして、次にコールを売ると「カバードコール」が完成する。

プットの権利行使は期日のクローズベースで株価が権利行使を下回っていれば株式の保有に変換される。それは自動的に実行される。セキュアードプットはマージン（証拠金）を使わず株式の購入代金を用意して行う。権利行使されたらコール売りを加えてカバードコールへの変換に備える。

株式オプションを利用した「カバードコール」はコール売りからの収入を「配当」とみなすと 1 ヶ月のオプションでは配当を毎年受け取るような効果がある。また、1 週間のオプションを利用すると 1 週間毎に配当を受け取れる。さらに、T の株式自体が 4 半期毎に配当を生み出す。カバードコールはこのように 1 回きりの取引ではなく期日毎にロールを繰り返すことでかなり魅力的な取引になる。

LEAPS のような長期オプションを利用するよりも短期のオプションのロールを繰り返す方が収益率は向上し平凡なカバードコールも魅力的な取引に変わる。さらに、「セキュアードプット」と「カバードコール」を繰り返すことができる。